

臨床実習コース

社会医学系科目 | 基本臨床実習科目 | 臨床科目 |
実習科目 |

これまで学んできたことを
具体的かつ実践的に身につけます



6年次 診療参加型選択科臨床実習

コースの特色

このコースでは、臨床実習が開始されます。

4年次の2学期からは北大病院で診療科を回り、病院という臨床の現場で患者さんと医療スタッフに接しながら、これまで各コースで学んできたことを具体的かつ実践的に身につけていきます。この実習と並行して、実習で認識した課題や疑問点について、臨床統合講義で振り返り、総合的な診療能力の基本を幅広く学びます。社会医学の実習も、この時期に行います。

続く5年次2学期の6カ月間は、大学病院や学外の医療機関で4週間にわたる長期の診療参加型コア科臨床実習を6回行います。

6年次1学期には、一つの診療科や教室あたり4週間にわたる長期の診療参加型選択科臨床実習を3回行います。

臨床実習コースの仕上げとして、臨床病理学の講義や多職種連携・

シミュレーション実習も行います。これらにより、卒業後に役立つ実践的能力も身につけることができます。

このコースの終盤には、卒業試験の一環として全国共通共用試験「臨床実習後 OSCE (Post-CC OSCE)」が行われ、臨床技能・態度が評価されます。その後実施される医師国家試験に合格して晴れて医師になります。

医学科の専門教育では、すべてが必須科目となっています。これも他系学部ときわめて異なるところです。これは患者の生命をあずかる医師に対する社会的要請によるものです。したがって、学部教育中にはすべての科目を学び、医師としての基本を身につけることになります。濃密な履修には、このような理由があります。

EVENT



6年間の学修を経て、いざ学士学位記伝達式

6年間の学修を経て、充実感いっぱいである卒業式です。ここから医療機関や大学、研究機関等へと羽ばたいていくことになります。



全科臨床実習：脳神経内科 電気生理学実習の様子

このように、各診療科に応じた専門性の高い実習も行われます。

医学科生からのメッセージ

患者さんと臨床実習

戸田 照久さん [5年生]
埼玉県立越ヶ谷高等学校(埼玉県)卒業

4年次後期から大学病院で臨床実習が始まり、全28診療科を各科1週間ずつ回ります。試験勉強が中心のそれまでの学生生活とは大きく異なり、実際に白衣を着て外来や病棟で患者さんと関わることになります。そこでは、実習に協力して下さった患者さんを通して疾患の理解だけでなく、診察の仕方やカルテの記載、診断や治療方針、症例発表といった医師になる上で必要とされる一連の基礎を学びます。また、実習を通じて様々な知識を学んでいく中で、将来どの分野の診療科を専門にするか具体的に考えることも多くなります。

私の場合、幾つかの外科系の診療科で手術の助手として参加させて頂く機会があり、これまで漠然と考えていた卒業後の進路を深く考えるきっかけにもなりました。僅かではありますが、学生という身分でありながらも患者さんの治療に直接関わった経験は、自分の中で大切な記憶の一つになっています。また、救急科では搬送された重症患者さんの亡くなる瞬間に立ち会う事もあり、この時の経験は2年次にある解剖学実習と並んで私の人生観を大きく変えるものとなりました。

いま真剣に医師になりたいと考えている方も、いずれ臨床実習をした際にはかけがえのない経験をする事になると思います。受験勉強、応援しています！

